

「日本語の教材や図書に関する新しい情報がほしい」という海外の先生方の声をよく聞きます。このコーナーでは、最近出版された日本語教材や参考書を中心に紹介していきます。紙面の制約上、一回に多くの本を紹介できませんが、海外の先生にとって使いやすい教材「授業や研究の役に立つ本」、また、「知っていると便利な図書・資料」などを取り上げます。

- データ凡例 1 著者 2 出版社 3 刊行年月 4 ISBN 5 判型・ページ数 6 定価 7 その他

コミュニケーションを重視した、『新基礎』の続編
『新日本語の中級』



データ

- 1 財海外技術者研修協会 (AOTS)
- 2 スリーエネットワーク 〒101 0064
- 東京都千代田区猿樂町2 6 3 (松栄ビル) TEL 03 3292 5751 FAX 03 3292 6195
- 3 2000年9月20日
- 4 4
- 88319 161 3
- 5 B 5判・308ページ、別冊解答集61ページ
- 6 2 835円 別売CD(3枚組)
- 4 4 88319 163 X
- 6 4 305円

『新日本語の基礎』の続編が登場

『新日本語の基礎』I、IIは、初級向けの代表的な教科書として、国内の日本語学校や海外の日本語教育現場で広く使われています。この『新日本語の中級』はその続編となる教科書で、初級レベルを終えた人が、その知識を使いながら、日本語でコミュニケーションできる能力を身につけることを目的としています。

全体は機能シラバスによって構成されていて、「尋ねる・確かめる」「電話で連絡する」「頼む」「許可をもらう」「誘う・断る」など20の課からなっています。

それぞれの課は、「学習目標」「学習する前に」「学習項目」「会話」「読もう」「会話の練習」「読もうの練習」「聞こう」という内容に分かれています。

日本で出会うような場面を考慮

この本では、外国人が日本で出会うような場面が考慮され、その中で実際に日本語を使うことを目標にしています。この教科書の主な内容となる「会話」と「読もう」では、こうした場面で日本語を話したり読んだりできるようになっています。

例えば「会話」では、会社や駅、店やレストランなどいろいろな場面での会話が示されています。「読もう」では、街の中で見かける表示、手紙、掲示板のお知らせなど、やはり日常生活で必要とな

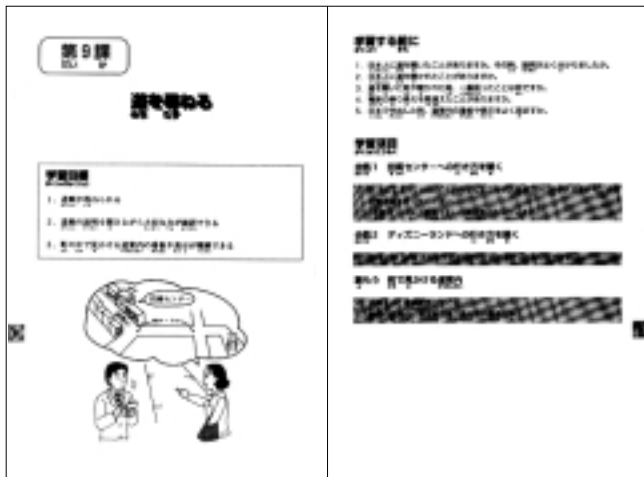
る様々なものについて、読む練習をします。また「読もう」ではこれと並んで、日本事情についてディスカッションの材料となるような文章もあります。

コミュニケーションを重視した練習

「練習」では、これらの「会話」と「読もう」について、形を正確に身につけるための基本練習をします。

そして、これに加えて「活動」という、コミュニケーションを重視したアクティビティがあります。これはロールプレイやインタビュー、タスク練習、作文など、学習者が自分で使う日本語を自由に考えながら目的を達成していくタイプの応用練習です。これによって、実際のコミュニケーションの中で日本語を使う練習ができます。

このような練習は『新基礎』には見られなかったもので、今回の『中級』におけるコミュニケーション重視の姿勢が現れていると言えるでしょう。



日本事情を学びながら、日本語を総合的に学べる

にほんじじょうまな にほんご そうごうてきまな

『季節で学ぶ日本語』

きせつまな にほんご



データ

石塚京子、市瀬俊介、寺田和子、堀越和男、増井世紀子、村澤慶昭・東京国際大学付属日本語学校 発行:アルク(〒168 8611 東京都杉並区永福2 54 12/TEL.03 3323 0026 FAX.03 3323 2021) 2000年12月15日 44 7574 0391 7 B 5判124ページ 1,890円 別売テープ(1巻) 44 7574 0392 5 1,260円

日本の季節の代表的な風物詩に着目

『季節で学ぶ日本語』は、初級レベルの教科書で、内容は、1999年4月から1年間『日本語ジャーナル』に連載されたものです。今回、単行本になるにあたり、「タスク」が、新たに加われました。

この教科書の最も特徴的な点は、文法や機能ではなく、日本の12ヶ月が課の切り口になっていることです。日本の美しい風物詩の写真やかわいいイラストは、学習者に内容に対する興味を湧かせ、勉強したいという気持ちにさせるでしょう。

また、この本の第二の特徴は、日本事情を勉強できるだけでなく、「読む」「書く」「話す」「聞く」の4技能を総合的に伸ばせる構成になっているという点です。



P. 17

日本人へのインタビュータスクを設定

課の構成は以下のとおりです。まず、その月を代表する行事や季節の風物詩がキーワードとして提示されます。そして、それに関係の深い歌や詩、短歌などが、鮮やかで情緒あふれる写真とともに紹介されています(英語訳つき)。例えば、4月のキーワードは、桜と花見です。

次に、キーワードに関わりのある絵を見て語彙をチェックしたり、質問に答えたりするコーナーがあります。これは、次の会話の聞き取りのための準備になっています。

それから、テープで会話を聞いた後、この会話の中で使われている便利な表現を練習するようになっています。また、上下関係や親疎関係などによってどのようにその表現が変わるのかも説明されています。

次に、課によって聴解、または読解の問題があります。聴解の内容は、インタビューやスピーチ、統計や絵の説明などの聞き取りが多く、読解は、文章の並べ替えやことわざと状況を組み合わせる活動などがあります。

最後に、図表や文章を読んでまとめたり、日本人に日本人の宗教観や老後の問題、環境に対する意識を尋ねるアンケートやインタビューのタスクがあります。このタスクは、日本語を実際に使う応用練習であると同時に、学習者が日本の文化や習慣の背後にある日本人の考え方について、より深く理解できるように設定されています。

自主学習できる

この本は、巻末に問題の解答と会話テープのスク립トがついており、自主学習ができるようになっています。また、クラスでも使用できます。

ただ、クラスで用いる場合、次の点に気をつけるといいでしょう。一つは、文化に関わる教材によくある問題ですが、答えが一つではない場合もあります。たとえば、結婚式のご祝儀の金額に関する問題では、地方によって適切な額が違う場合もありますので、気をつけましょう。もう一点は、各課で紹介されている有名な歌です。付属のテープには歌は入っていませんので、教師が学習者にそれらの歌を聞かせてあげられると、学習者はもっと日本の文化に親しめ、楽しめるでしょう。



P. 20

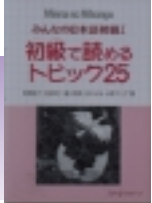


P. 48

p.18~21は、以下の日本語国際センター専任講師が図書を選び、分担して紹介文を執筆しました。

磯村一弘、小玉安恵、柴原智代、内藤満、向井園子、藤長かおる(執筆順)

いそむらかずひろ こたまやすえ しはらちともよ ないとうみつる むかいそのこ ふじなが



「読む」楽しさを味わう

『初級で読めるトピック25』

データ

■牧野昭子、沢田幸子、重川明美、田中よね、水野マリ子、スリーエーネットワーク(〒101 0064 東京都千代田区猿楽町2 6 3(松栄ビル)/TEL .03 3292 5751 FAX .03 3292 6195) 2000年11月10日 44 88319 168 05B 5判・65ページ、別冊解説集42ページ 61 470円

この本は『みんなの日本語初級I』の各課に対応して作られています。「読む」楽しさが味わえるように、この本には次のような工夫があります。①本文はそれまでに習った課の学習項目だけを使用、②本文の長さは約600字、③新出語彙は各課で10～20程度で、英語・中国語・韓国語・タイ語・インドネシア語の訳付き、④細かく読まないといけない問題ではなく、ポイントがわかれば解けるような問題を設定、⑤全部の漢字にふりがなをつ

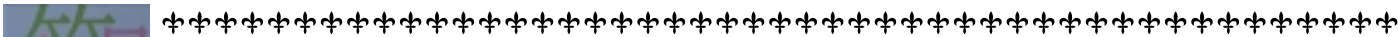
けて読む負担をへらす。読み物の種類も文字や数字に慣れる練習から始めて、お知らせ、手紙、インタビュー、クイズ、アンケート、グラフなどさまざまなタイプの読み物が入っています。トピックも「お花見」「高校生3,958人にききました」「宝くじ」「すもう」「テレビ放送」など学習者が興味を持って、楽しく読めそうなトピックがなっています。

教師用ガイドの部分には、課のねらいや読解に入る前に導入として行ったほうがよいこと、読んだらどのように内容を発展、応用させるかの例が書かれていますので、授業をすすめる上でたいへん参考になります。

ことばを学習する際には、音声だけでなく文字で確かめることによって、より理解を深め、記憶を助け、効率的に学習することができます。ですから「読む」活動はたいへん重要です。『みんなの日本語初級I』を主教材として使っていないくても、学習項目の一覧表があるので、それを見て、この本をリソースとして利用することもできるでしょう。



P. 26 ~ 27



漢字の「読み」の力を伸ばすために

『Decoding Kanji』

データ

■ハーバイン・八重子 講談社インターナショナル(〒112 8652 東京都文京区音羽 1 17 14 / TEL .03 3944 6492 FAX .03 3944 6394) 2000年 8月25日 44 7700 2498 35A 5 変型判・144ページ 61 785円

これは英語で書かれた、漢字学習のための参考書です。漢字授業の副教材としても、自習のための教材としても使えます。この本で学ぶ漢字は、日常よく使われる「常用漢字」です。そして学習の主な目標を「読めるようになる」ことに絞っているのがこの本の一番の特徴です。

本文はパート1、パート2、そして付録の三つの部分からなっています。パート1では、漢字の構成についての基本的なことを学びます。そして漢字を読む時

にその知識をどのように生かすかということも勉強します。パート2には、パート1で学んだ知識を実際に使えるようにするためのさまざまな形の練習問題があります。付録には、漢字構成のより詳しい内容のほか、基本的な「偏」や「旁」の意味、間違えやすい同音意義語をペアにしたものなどがまとめてあります。

この本の中心はパート2の練習問題です。ここでは、文を読む上で非常に重要な「音読み」の力を身につけるためのシステムティックな練習をします。用いられている基本的な方法は、漢字をペアにすることで、まず、形が似ていてまぎらわしい漢字を識別する練習から始めます。これにより学習者は、漢字の細かい形の違いに気をつける習慣を身につけます。これは、漢字学習が進み、より複雑な字形の漢字を学ぶようになると効果が

発揮します。次に、漢字構成要素のうち、音を表す要素を識別する練習をしながら、さまざまな「音読み」練習をします。最後に、それまでに得た成果を、同音異義語の識別に生かす練習をします。これらの練習問題は、文脈のないものから、文脈がより重要な役割を果たすものへと段階的に作られています。したがって、初級の漢字がある程度読める人で、これから中上級へ向けて漢字をしっかり身につけたいと思っている人向けの本です。



P. 70 ~ 71



日本文化を学ぶマルチメディア教材 『StarFestival』

データ

1 著者・製作者:宮川繁2 StarFestival, Inc.(P.O. Box 401025 Cambridge, MA 02140 0011 / TEL .1 617 216 4714, www.starfestival.com, info@starfestival.com) 3 2000年 4 CD ROM Cross Platform Version 1.0 1 929724 00 4 Mac only Version 1.1 1 929724 01 2 5 CD ROM ビデオ40分、写真300点 Student Work Book 各約30ページ、Teacher's Guide 約350ページ 6 CD ROM US \$ 79.95、Student Work Book 各グレード(5冊1セット) US \$ 50.00、Teacher's Guide US \$ 40.00

『StarFestival』は、幼稚園から高校までの社会科、地理の教材として米国で開発されたマルチメディア教材です。この教材は、CD ROMと、それに付随する

印刷教材からなっています。使用言語は、CD ROMの中の生のインタビュー部分以外は、全て英語です。

この教材の内容は、10歳で渡米、米国で生活する日本人の現在の主人公が、自己のアイデンティティーを求めて、30年後、故郷の平塚へ戻るという設定です。CD ROM教材は、日本の家、商店、魚市場、タクシー、バス、駅、七夕祭など、主人公が訪れる20の「サイト(site)」から構成されています。

各々の「サイト」には、関連したビデオ、文化事情などの解説、写真など様々な素材が盛り込まれており、日本文化や日本事情の学習に使えます。また、いくつかの「サイト」には、町の人と主人公との生のインタビューのビデオがあるので、中、上級の日本語学習に利用できます。この部分には、英語訳、かな、漢字かな混じりの表示もあります。このほかに、ホームページ(データ参照)に、

このビデオに関連した双方向性の日本語学習用副教材「Tanabata」があり、学習用に使えます。

印刷教材には、教師用ガイドと、CD ROMと一緒に使うワークブックがあります。後者は、小学校高学年用と中学生用があり、それぞれ、「食べ物・衣類」「家・趣味」「七夕祭」などのテーマにより5分冊になっています。英語を使って学ぶ地域では、日本文化紹介、異文化理解の授業に、CD ROMといっしょに使うことができます。



12種類の外国語教授法を解説した

『日本語教授法ワークショップ』

データ

1 編著者:鎌田修、川口義一、鈴木 2 凡人社 〒102 0093 東京都千代田区平河町1 3 13 菱進平河町ビル 1階 / TEL .03 3263 3959 FAX .03 3470 2129 2000年9月30日(増補版) 4 89358 351 4 5 A 5判・281ページ 6 2,730円

この本は、オーディオ・リンガル・メソッドからコミュニカティブ・アプローチまで12の外国語教授法(図「目次」参照)をとりあげて、その教授法が生まれた背景、理論、日本語教育での実践方法を紹介したものです。教授法の一般的な解説書とちがいで、それぞれの教授法について、日本語教育で実践したことがある人が説明しているのが特徴です。ですから、実際の日本語の授業で、どんな

活動をするか、その活動の目的はなにか、そのためにどんな教材を使うか、学習者と接するときになにに気をつけるのかなどが、各教授法について具体的にわかりやすくまとめられています。また、さらに深く知りたい人のために、参考文献も充実しています。

この本のもうひとつの特色は、本で紹介されている教授法について、授業を録画したビデオ(別売り)があることです。もともとこの本は、いろいろな教授法を体験する目的で実施された「日本語教授法ワークショップ」での模擬授業をもとに作られたものです。ですから、本の説明とビデオの授業の両方を見れば、それぞれの教授法がどんなものかが頭に描きやすくなるでしょう。

この本は、いろいろな教授法についての知識を広く身につけたいという人にお

すすめの参考書です。毎日の教室活動でやっていることの意味を考え直してみたい人、言葉はどう学ぶかについて興味がある人にもおもしろい1冊です。また、自分の授業で使える教方を見つけたという人にも、アイデアを提供してくれることでしょう。

*本書は1996年発行のものに「コミュニカティブ・アプローチ」が加わった増補版です。

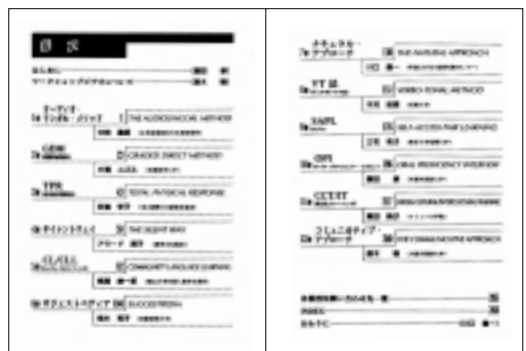


図.「目次」